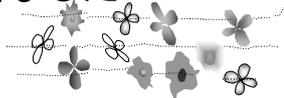


皆さまのカンパによって 東奥日報に意見広告(紙面半分)を掲載できました



ありがとうございました



5月25日のつどい「たべたいねん青森 いらんねん再処理」に参加していただいた皆さま、また、青森県の東奥日報への意見広告に賛同いただいた皆さま、ご協力ありがとうございました。

つどいには、221名の方に参加していただきました。これまで再処理に反対していた人々と、映画「六ヶ所村ラブソディ」以降に新たに活動を始めた人々が一つになって、関西規模で再処理工場に反対する意思を社会的に表明する場となりました。

古きと新しきのそれぞれが刺激を受けながら、そしてそれが相乗効果を生み出しながら、参加者の皆さまと一緒に、関西での再処理反対の新たな一歩を踏み出すことができました。

「食の安全」を切り口とした今回のつどいは、自給率120%の青森県の農海産物が私たちの食卓に直結していることに重きをおき、食の安全性を守るために苦労を重ねておられる青森県の生産者の方々との新しいつながりを考える上でも大変よい機会になりました。

生協・消費者団体も参加され、このつどいが契機となって、新たな取り組みが始まろうとしています。また、都市生活がエネルギーも食材も地方に依存している現状の中で、それらの生産者が抱える問題をも踏まえながら、私たち自身が責任ある消費者として意識的な選択を行使して行くことが、青森の生産者と真に連帯して、再処理工場を止める一つの鍵になると思っています。

5月27日には、つどいの代表団11名が青森県庁に出かけ、つどいの決議を提出し、「たべたいねん青森 いらんねん再処理」の思いを一人ひとりが訴えてきました。また青森県農協中央会にも出かけました。この様子については、別紙の報告をご覧ください。

東奥日報への意見広告カンパには、43団体・419名の皆さまから約163万円ものカンパが寄せられました。おかげで当初目標としていた新聞半面(7段)の意見広告を出すことができました。本当にありがとうございました。掲載料(約156万円)を引いた残金は、意見広告を呼びかけたチラシ印刷代の補填に使わせていただきます。

意見広告は、青森でG8エネルギー大臣会議開催中の6月8日に掲載されました。青森県の皆さまに、関西の気持ちを伝えることができました。カンパへの感謝と一層の連帯の気持ちを込め、カンパしていただいた皆さまに当日の新聞を同封いたします。



YAMさんと武藤さんのトーク

2月末に誕生した「たべたいねん青森 いらんねん再処理」実行委員会はこれをもって一旦解散いたします。しかしながら、皆さまの気持ちを大切に、この活動は新たに立ち上げる「たべたいね

ん青森 いらんねん再処理」ネットワークが引き継いでいきます。メンバーはそれぞれの活動を続けながら、目的を共有する部分ではこのネットワークが今後も積極的に動いていく所存です。

再処理工場は、ガラス固化で完全に行き詰まっています。本格稼働は秋口という報道も出ています。実際に、本格運転を止めるために、力を合わせて活動を進めていきましょう。

2008年6月吉日

「たべたいねん青森 いらんねん再処理」実行委員会



YAMさんとTaku-changのライブ



「食の安全と再処理」のパネル討論



豊田勇造さんのライブ



再処理止めようのアピール SFJ



青森に出かける代表団あいさつ



最後は六ヶ所ガールズの「海に空に放射能を捨てないで」の大合唱

5月27日 青森県と青森農協中央会へ行ってきました

なんとしても再処理を止めたいとの思いを抱いて、伊丹空港から青森空港へ、夜行列車の1人と青森県庁で落ちあい、総勢11人。今回の青森県との交渉のお世話を下さった県会議員の鹿内さんと古村さんの部屋に行って昼食を食べながらの紹介、それが終わり、13時からの青森県との交渉の部屋に移動しました。



出席者は青森県のエネルギー総合対策局 原子力立地対策課 総括副参事(課長代理) 三上雄二氏、他3名が同じ原子力立地対策課 (この3人は一言も言葉を発しませんでした)。

農林水産部 農林水産政策課 課長代理 一戸治孝氏、食の安全・安心推進課 総括主幹 相馬久子氏、以上6人。

私たち関西から11人と青森から2人、勿論、鹿内さんと古村さんも同席されていました。驚いた事にマスコミが最初からずーと周囲に侍っているのです。部屋が狭いので人でいっぱいでした。

今回の青森訪問は、「食いたいねん青森 いらんねん再処理」で表わされている関西の気持ちを青森県知事に伝えるのが目的だったので、まずは関西のおみやげを渡すという、事から始めました。相手は少し驚いていましたが、受け取ってくれました。そして5月25日のつどいで私たちが決議した決議文を読み上げ、放射能の問題点を説明し資料を渡しました。そして席順に自己紹介を兼ねてそれぞれの思いを述べていきました。それぞれの生活地点からの発言で、途中で泣きながらの人も、みなさん、きっちりと自分の思いを述べました。立場の違いがあり、直接的な反応はなくとも、今回の行動は決して無駄にはならないと思いました。

記者会見の後

青森農協中央会へ移動。

角浜副会長と松本農政連幹事長とが広い応接室で待っていてくれました。

こちらにもお土産を渡し、りんごの缶ジュースを出して貰いました。関西の11人がそれぞれの思いを述べました。角浜副会長は途中退席され、松本さんが「農業にかかわっている人で原燃をよく思っている人はいません。皆さんが今日おっしゃったことは20数年前に自分たちが国や県に言ってきたことだ。そして、それはいつか自分たちが、青森県が言われるようになると、それが来たという感じだ」と言われました。「何をしたいのか分からない」と言われる程、青森の厳しい現実を、私たちは突きつけられたのでした。

日帰り1人を除いて、その夜は六ヶ所村の「花とハーブの里」で泊まりました。そして翌日、六ヶ所再処理工場周辺を見学をして帰ってきました。

そしてこの行動が私たちの再処理を止めるためのスタートになったと思います。



決 議 文

食の安全・安心を求める関西の立場から、六ヶ所再処理工場の運転に反対し 青森県知事が本格稼働の安全協定にサインしないよう求めます

六ヶ所再処理工場が本格稼働しようとしています。

そのことを憂慮して私たちはこれまで、映画上映会やトーク会、学習会や集会などの催しを、大小さまざまな規模で繰り返し、積み上げてきました。そこでは、食の安全・安心がテーマとして貫かれてきました。

そして本日、それらの思いを一つに集めるべく、滋賀、京都、奈良、大阪、兵庫および和歌山の関西一円から一堂につどいました。ここに私たちは、食の安全・安心を求める生活者の立場から、六ヶ所再処理工場の運転に反対する意思を表明します。

りんご、にんにく、長いも、ごぼう、おこめ。こんぶ、いか、かれい、まぐろ、ほたてなど。青森や三陸のたくさんの恵みが、関西でも日々食卓にのぼり、私たちの生きる力となっています。私たちはこのことに深く感謝しています。

しかし、六ヶ所再処理工場が本格稼働すれば、日常的に放出される放射能で、大気や大地や海が汚染されます。実際、フランスのラ・アグ再処理工場周辺では、野菜、牛乳、海藻や魚などから、自然界にはないセシウム、ストロンチウムやヨウ素などの放射能が検出されています。海の汚染に起因する小児白血病が多発しています。そこに、青森や三陸の明日の姿が見えていることに、私たちは深い憂慮の念を抱かざるを得ません。

同時に、食の安全を求める関西の生活者の立場において私たちは、たくさんの小さいのちが放射能で傷つけられないよう、子どもたちが元気に、未来に誇りと希望をもって生き続けられるように、心から願っています。

青森県の三村申吾知事が安全協定にサインさえしなければ、本格稼働に入ることはできません。

青森県では食の安全・安心が強くうたわれ、知事自ら先頭に立って「攻めの農林水産業」を推進しています。再処理工場の運転容認は、明らかにこの立場に反するものです。

人類の生存すら危うくなりつつある地球環境の中で、太古の昔から万民のものであった、いのちの大地や、宝の海、そして大気を放射能でこれ以上勝手に汚すことは許されません。

知事の判断は、六ヶ所のみならず、世界中の海に対し、大地に対し、空に対し、そこで暮らすすべての命あるものに対し、そして、未来の子供たちに対して責任をもつべきものです。

同時に私たちは、再処理工場の放射能問題の基となっている核のゴミの排出に目を向けざるを得ません。核のゴミ問題は、関西に暮らす私たちにとっても、自らの暮らしを顧みるきっかけとなるものです。さらに、原発に依存したエネルギー政策のあり方を問い直す重要な契機となるものです。

私たちは、再処理工場の本格稼働に反対します。試験運転の即時停止を要求します。青森県知事が本格稼働の安全協定にサインしないよう心から求めます。

2008年5月25日

「たべたいねん青森 いらんねん再処理」のつどい 参加者一同